

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第4020755号

(P4020755)

(45) 発行日 平成19年12月12日(2007.12.12)

(24) 登録日 平成19年10月5日(2007.10.5)

(51) Int. Cl.		F I	
B 6 0 N	3/00	(2006.01)	B 6 0 N 3/00 B
B 6 0 N	3/10	(2006.01)	B 6 0 N 3/10 A
B 6 0 R	7/06	(2006.01)	B 6 0 R 7/06

請求項の数 2 (全 7 頁)

(21) 出願番号	特願2002-317532 (P2002-317532)	(73) 特許権者	000135209
(22) 出願日	平成14年10月31日(2002.10.31)		株式会社ニフコ
(65) 公開番号	特開2004-149025 (P2004-149025A)		神奈川県横浜市戸塚区舞岡町184番地1
(43) 公開日	平成16年5月27日(2004.5.27)	(74) 代理人	100089266
審査請求日	平成17年6月10日(2005.6.10)		弁理士 大島 陽一
		(72) 発明者	柳田 洋介
			神奈川県横浜市戸塚区舞岡町184番地1
			株式会社ニフコ内
		審査官	林 茂樹
		(56) 参考文献	特開平11-151969(JP, A)
			実開昭51-011222(JP, U)
			特開平08-207640(JP, A)
			最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 自動車の小物入れ兼用カップホルダ装置

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

箱状体と、

前記箱状体の開口面に沿って摺動可能に設けられ、当該箱状体の開口を開閉するスライド蓋と、

前記スライド蓋の内方へ収容された収容位置と前記スライド蓋より外方かつ前記開口内に突出した突出位置との間を摺動可能に前記スライド蓋に設けられ飲料容器支持部材と、

前記スライド蓋と前記飲料容器支持部材との間に設けられて前記飲料容器支持部材を前記突出位置へ向けて付勢する付勢手段と、

前記スライド蓋と前記飲料容器支持部材との間に設けられて前記飲料容器支持部材を前記付勢手段の付勢力に抗して前記収容位置に保持するオルタネート式ラッチ機構とを有することを特徴とする自動車の小物入れ兼用カップホルダ装置。

【請求項2】

前記飲料容器支持部材と前記箱状体との間に相対移動規制手段が設けられ、前記相対移動規制手段は、前記箱状体に対する前記飲料容器支持部材の突出方向の移動を制限し、前記突出位置において前記飲料容器支持部材の突出端が、前記箱状体の内面に当接しない位置に定められることを特徴とする請求項1に記載の自動車の小物入れ兼用カップホルダ装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

10

20

【発明の属する技術分野】

本発明は、自動車の小物入れ兼用カップホルダ装置に関するものである。

【0002】**【従来の技術】**

コンソールボックスの後面部（乗員との対向面）に引出し自在に箱状体を取り付け、缶・瓶・紙コップ等の飲料容器の保持手段として利用し得るのみならず、小物入れとしても利用し得るように構成された自動車の小物入れ兼用カップホルダ装置を、特開平11-42974号公報において本出願人は既に提案している。

【0003】**【特許文献1】**

特開平11-42974号公報

【0004】**【発明が解決しようとする課題】**

しかるに、この先行技術によると、飲料容器を支持する部材としてのホルダプレートは、水平姿勢を維持するように弾発付勢されており、これが箱状体の開口面の一部を常に塞ぐようになっている。そのため、小物入れとしてカードや小銭などを箱状体の内部に収納した際に、この飲料容器支持部材が指先を差し込むことを邪魔することになり、小物入れとしての使い勝手を著しく低下させるという欠点があった。

【0005】

本発明は、このような従来技術の問題点を解消すべく案出されたものであり、その主な目的は、カップホルダとしての機能と小物入れとしての機能とをより一層高次元に両立させることができるように改良された自動車の小物入れ兼用カップホルダ装置を提供することにある。

【0006】

このような目的を果たすために、本発明の請求項1においては、箱状体3と、前記箱状体の開口面に沿って摺動可能に設けられ、当該箱状体の開口を開閉するスライド蓋と、前記スライド蓋の内方へ収容された収容位置と前記スライド蓋より外方かつ前記開口内に突出した突出位置との間を摺動可能に前記スライド蓋に設けられ飲料容器支持部材と、前記スライド蓋と前記飲料容器支持部材との間に設けられて前記飲料容器支持部材を前記突出位置へ向けて付勢する付勢手段と、前記スライド蓋と前記飲料容器支持部材との間に設けられて前記飲料容器支持部材を前記付勢手段の付勢力に抗して前記収容位置に保持するオルタネート式ラッチ機構とを有していることを特徴とするものとした。

【0007】

このようにすれば、スライド蓋を開いた時に飲料容器支持部材をスライド蓋と重なり合わせることができ、カップホルダとして利用する時にのみスライド蓋から飲料容器支持部材を突出させることができるので、小物入れとして利用する際に飲料容器支持部材が邪魔にならずに済む。また、オルタネート式ラッチ機構のオンまたはオフの切替により、カップホルダまたは小物入れとして形態を変更できるため操作性及び取扱性が良い。

【0008】

また請求項2においては、上記の構成に加えて、飲料容器支持部材と箱状体との間に相對移動規制手段（下向き凸部14と上向き凸部15）を設け、前記相對移動規制手段が、前記箱状体に対する前記飲料容器支持部材の突出方向の移動を制限し、前記突出位置において前記飲料容器支持部材の突出端が、箱状体の内面に当接しない位置に定めることとした。

【0009】

これにより、出し放しにした飲料容器支持部材が箱状体と一体的になり、スライド蓋を開じる際に飲料容器支持部材が箱状体に突き当たらずに済むので、意匠面を傷付けたりするおそれを皆無にすることができる。

【0010】**【発明の実施の形態】**

10

20

30

40

50

以下に添付の図面を参照して本発明について詳細に説明する。

【0011】

図1は、本発明が適用された自動車の前席回りを示している。本発明による小物入れ兼用カップホルダ装置は、運転席と助手席との間に車体の前後方向に延設されたコンソールボックスCBの前部に收容されている。コンソールボックスCBの天板UPには開口Hが形成されており、この開口Hには、本発明装置の一部を構成するスライド蓋2が前後摺動自在に設けられている。

【0012】

図2～図4に示すように、小物入れ兼用カップホルダ装置1は、コンソールボックスCBの天板UPの下面に沿って前後方向に摺動するスライド蓋2と、コンソールボックスCBの内方にてコンソールボックスCBに固定された箱状体3とからなっている。

10

【0013】

スライド蓋2は、コンソールボックスCBの天板UPの下面に固定される箱状体3の開口面に沿って前後移動自在なように箱状体3に結合されており、その上面の後端部（乗員に近い側）に突設されたつまみ4に指先を引っ掛けて開閉操作を行うようになっている。そしてスライド蓋2は、前方へ押し出すと、引き戸が開かれた際に戸袋内に收容される要領でコンソールボックスCBの天板UPの下方に收容されて開口Hを開き、後方へ引き出すと、開口Hを塞ぐようにされている。

【0014】

スライド蓋2は中空に形成されており、その内部に形成されたガイドレール5（図4参照）に摺合して前後摺動自在な飲料容器支持部材6が組み込まれている。

20

【0015】

飲料容器支持部材6は、スライド蓋2の下面にその一端を繋着し、飲料容器支持部材6の前端部に枢着されたボビン7にその他端を巻回した定荷重ばね8により、常時後方へ、つまりスライド蓋2の後端縁から突出する向きに弾発付勢されている。

【0016】

飲料容器支持部材6の左右方向一側には、スライド蓋2の内面に一体形成されたラック9に噛合するピニオン10と直結された回転ダンパ11が設けられている。そして飲料容器支持部材6の他側には、スライド蓋2の前端部下面に固着されたスプリングピン12と係合可能なハートカム13を応用したラッチ機構が設けられている。

30

【0017】

なお、定荷重ばね8による突出方向駆動機構、回転ダンパ11による突出速度調節機構、ハートカム13によるオルタネート式ラッチ機構は、全てこの種のスライド装置に用いられる公知形式のものを適用し得る。

【0018】

飲料容器支持部材6の下面の適所（前端部側）には、下向き凸部14が設けられている。また箱状体3の上面の適所（前後方向中間部）には、飲料容器支持部材6の下向き凸部14と係合可能な上向き凸部15が設けられている。

【0019】

次に本発明装置の使用要領について説明する。

40

【0020】

前記した通り、スライド蓋2は、前方へ押せば開口Hが開かれ、後方へ引けば開口Hが塞がれる。そして開放時には、スライド蓋2の大部分がコンソールボックスCBの内方に收容され、その後端縁に飲料容器支持部材6の後端面が露出する。この飲料容器支持部材6の後端面をハートカム13によるラッチ機構のオーバーストローク分だけ前方へ押し込むと、ラッチ機構のロック状態が解除され、定荷重ばね8の弾発力と回転ダンパ11の抵抗力とにより、飲料容器支持部材6が適度な速度で後方へと突出してくる。

【0021】

これにより、図2に実線で示したように、箱状体3の左右中間部に飲料容器支持部材6が突出し、カップホルダとしての機能が得られる。

50

【0022】

飲料容器支持部材6を前方へ一杯押し込めば、ラッチ機構がロックし、飲料容器支持部材6がスライド蓋2の内方に収容された状態（図2の二点鎖線）が保持される。

【0023】

飲料容器支持部材6がスライド蓋2から突出した状態のままスライド蓋2を後方へ引き出すと、途中までは飲料容器支持部材6はスライド蓋2と共に後退するが、箱状体3に設けられた上向き凸部15に飲料容器支持部材6の下向き凸部14が引っ掛かると、飲料容器支持部材6が箱状体3と共に静止した状態となる。従って、そのままスライド蓋2を一杯に閉じれば、スライド蓋2の内側に飲料容器支持部材6が収容された態様となる。このときは、ラッチ機構がロックするところまで飲料容器支持部材6がオーバーストロークしないが、スライド蓋2の内方への収容状態は保持される。ここで飲料容器支持部材6の突出端の突出限度位置は、箱状体3の後壁内面との間に適宜な隙間Gが開くように定められている。これにより、飲料容器支持部材6が箱状体3に衝突しないので、意匠面が傷付いたりすることがない。

10

【0024】

この状態でスライド蓋2を開いた場合は、飲料容器支持部材6をとり残したままスライド蓋2が移動するので、箱状体3の左右中間部に飲料容器支持部材6が突出した状態となるが、スライド蓋2が開かれた後に改めて飲料容器支持部材6を一杯押し込めば、ラッチ機構がロックして飲料容器支持部材6がスライド蓋2の内方に収容された状態が保持される。従って、箱状体3の開口面に障害物が存在せず、小物入れとしての利便性が損なわれずに済む。このスライド蓋2の開放状態にあっては、飲料容器支持部材6のみをスライド蓋2から独立して自由に出し入れできることは言うまでもない。

20

【0025】

【発明の効果】

以上詳述した通り本発明の請求項1に記載の構成によれば、スライド蓋の内部に飲料容器支持部材が収容され、スライド蓋の開閉運動と関わりなく飲料容器支持部材を出し入れできる上、飲料容器支持部材が突出した状態のままで蓋を閉じても、自動的に蓋の内部に収容されることとなる。従って、カップホルダとしての機能と小物入れとしての機能とを、より一層高次元に両立させる上に多大な効果を奏することができる。

【0026】

30

また請求項2に記載の構成を上記構成に加えれば、出し放しにした飲料容器支持部材が箱状体と一体的になり、スライド蓋を閉じる際に飲料容器支持部材が箱状体に突き当たらずに済むので、意匠面を傷付けたりするおそれを皆無にすることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明が適用された自動車の運転席回りの斜視図

【図2】本発明装置の上面図

【図3】図2中のIII-III線に沿う断面図

【図4】蓋の一部切除して示す下面図

【符号の説明】

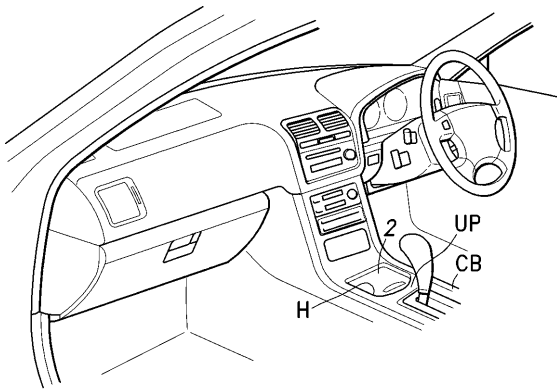
- 1 カップホルダ装置
- 2 スライド蓋
- 3 箱状体
- 4 つまみ
- 5 ガイドレール
- 6 飲料容器支持部材
- 7 ボビン
- 8 定荷重ばね
- 9 ラック
- 10 ピニオン
- 11 回転ダンパ

40

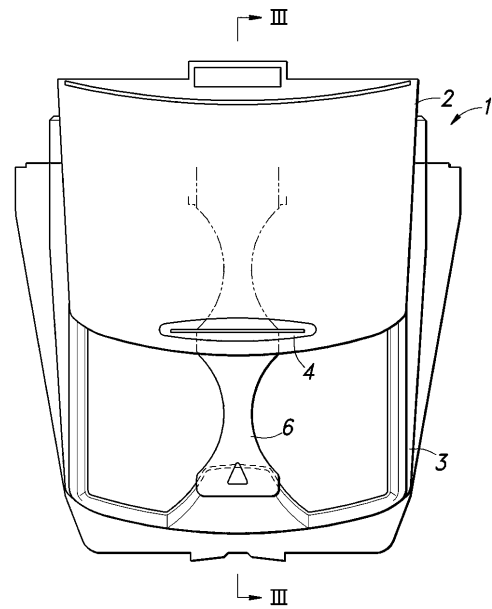
50

- 1 2 スプリングピン
- 1 3 ハートカム
- 1 4 下向き凸部
- 1 5 上向き凸部

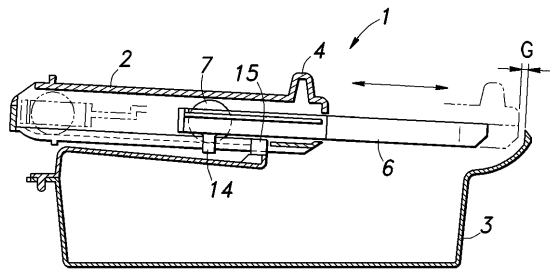
【図 1】



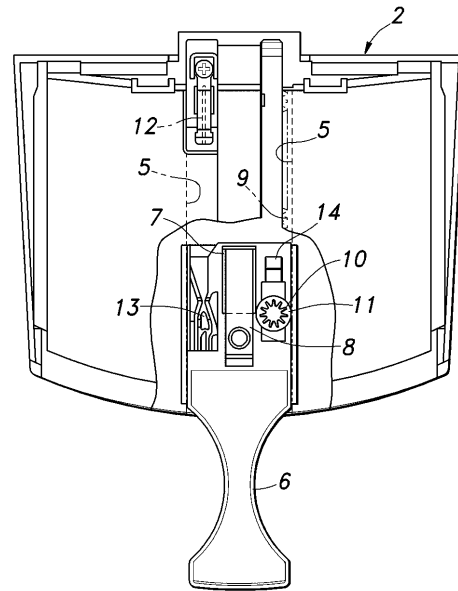
【図 2】



【図 3】



【図 4】



フロントページの続き

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

B60N 3/00

B60N 3/10

B60R 7/06